

宇宙の叡智を地球と人類の目醒めのために

地球上のすべての生命体が共存共振できる地球社会を作る

一昨年から続くコロナ禍の中、多くの方々が先行きの不安や恐怖に苛まれているのではないだろうか？

これまでの延長線上で物事を考える、更なる行き詰まり感に襲われること、早急に対処しようとするばするほど、二進も三進もいかなくなるような現象が続くことでしょうか。そして、世界はさらなる混乱と分断に直面していくように見えてきます。

しかし私は見方を変え生き方を変えさえすれば、今人類に起きていることは宇宙の叡智へと飛翔するチャンスになると捉えています。

チャンスへと変えうるポイントは、次の4つになります。

- 1. 唯物的見方から全ては波動(振動)として捉える見方への変換のチャンス
- 2. 「いかに得るか?」から「いかに与えるか?」という生き方への変換のチャンス
- 3. 地球蘇生へのチャンス
- 4. 霊性進化のチャンス

受け止め方を変え行動し始めたら、素晴らしい世の中へ変化していくチャンスだったと気づく時が来るでしょう。新型コロナウィルスは、見方を変える大きなきっかけを与えてくれているのです。



映画監督・俳優・声優 白鳥哲 (しらとり てつ)

白鳥哲 (しらとり てつ)

長年文学座の俳優として活動した後、声優の傍ら映画監督として活躍する。地球環境へのアプローチを人類の在り方から問う劇場公開映画7作品を発表。映画『祈り〜サムシンググレートとの対話〜』は、数々の国際映画祭で賞を受賞し、劇場上映3年3か月という国内歴代一位のロングランを達成。最新作はごみ問題に焦点を当てた中編映画『ゼロ・ウェスト PLUS〜持続可能な暮らし〜』。

に影響しているのです。新型コロナウィルスは、物質的な見方で見ればRNA型の側面で見れば、他の物質と同様に振動情報でもあります。

振動情報として見ると、RNAは非常に不安定で水に映る振動情報によって変化します。実験結果から、現在、新型コロナウィルスが無数の指標にしているPCRの反応での「陽性」をそのまま「感染者」とみなすのは過ちであることが分かります。

物質的な見方から、波動的見方へと転換すると世界はガラッと変わって見えてきます。唯物的な固定的見方は真実の一面に過ぎないことが理解できるようにになります。これは、全ては振動情報であるという見方へ脱皮するチャンスだと言えます。

この世界の全ては、量子レベルで振動しています。色も、香りも、触覚も、感情も、感覚も、思考もです。見えなくても振動しているのです。その振動が物理的な見える現象を形作っているのです。

目に見えるものだけを全ての判断基準にするのは、真実の一面でしかありません。その根本にある波動的な要因を理解してこそ初めて世界の本質が見えてくるのです。まさに今、唯物的価値観から振動情報理解する価値観へとシフトするチャンスでもありません。

「いかに得るか?」から「いかに与えるか?」という生き方への変換のチャンス

この世界の全ては量子レベルで振動している。と捉えられるようになると、全ての行い(出来事)も振動(波動)であると捉えられるようになります。

振動(波動)には波の性質があり、出した波は戻ってくる。同じ波同士は引き合う。違う波同士は反発し合う。大きな波は小さな波を飲み込んでいく。と相互に関係し合います。

「与えたものが受け取るものである」ということを理解すると、「自分にとって良いものを与えた方が良い」ということが自ずと分かってくる。出したものは戻ってきます。喜びや嬉しさを与えた方が、自分にとっても良いということも分かってくるのです。

「いかに得るか?」という価値観の中ではなく、「奪う」「奪われる」という考えになります。誰かが得ると

いうことは誰かが損をすることと同義です。「奪う」「奪われる」は同質の波なので、そこから出られないなくなりその悪循環に直面します。いわゆる「ゼロサム」と呼ばれるもので、今の産業構造がその性質を持っています。

それよりも「いかに与えるか?」へと価値観をシフトした方が喜びの循環が起きることになります。

3. 地球蘇生へのチャンス

新型コロナウィルスの拡大によって世界各地で驚くべき出来事が報告されました。

長い年月、インドの都市で見えるはずのヒマラヤ山脈が大気汚染により見えなくなっていました。ところが、一か月近く経済活動がストップすることで、大気がきれいになりヒマラヤ山脈が見えるようになったのです。

この現象はアメリカ・ロサンゼルスや、ヨーロッパ各地の都市、日本でも報告されました。

大気だけではなくありません。「水の都」と呼ばれるイタリヤ・ベネチアでは、長い年月、水の汚染が大変な問題となっていました。ですが、経済活動がストップしたことで水が綺麗になり、何と二十年前にイルカが戻ってきたと報告されました。

人間が経済活動を止めれば、地球は蘇生するのです。人間の経済活動が地球を破壊していることが明らかになったとも言えますが、今からでも出来る限りのことをしていけば、地球が蘇るチャンスはまだあることが分かったのです。

4. 霊性進化のチャンス

新型コロナウィルスへの恐怖が広がっている理由は何でしょうか?それは「死に対する恐れ」です。

「死にたくない」「大切な人を死なせたくない」「死に対する恐れが私たちを防御に導きます。必要以上の防御は収束時間を延ばし、拡大させているようにも思えます。でも考えてみてください。私も皆様も共通して言えることがあります。

必ず亡くなるということ。誰にも訪れる「死」は恐れるものでしょうか?私は、「死」は迎えるものであると思っています。

忘み嫌うものではなく、正しく受け入れ、「死」から学べば、命を尊び大切に生きることができるようになると思っています。

量子力学の進歩で、肉体を失ってからも意識が残る事が様々な形で検証されています。科学的にも宇宙そのものになってきています。肉体を失ってからも意識が残るとしたら、死ぬ寸前までより良く生きる事が大切になります。

自分が出したエネルギーを将来必ず受け取ることになるとしたら、良い行いをして良い種を沢山撒いた方が、自分にとって実り多い良いことが沢山戻ってくるようになります。仏教の教えに次のような言葉があります。

白鳥監督映画作品 短編21作品

長編7作品

- 蘇生II
- THE READINGS
- 蘇生
- 祈り INORI
- 不食の時代
- 魂の教育
- ストーンエイジ
- ホビ
- 恩送り
- 水素革命
- 地球蘇生プロジェクト
- ホワイトライオン
- コスモス
- フリーエネルギー
- 循環農法



白鳥哲シネマ Tetsu Shiratori Cinema

INORI

Earthian Alliance



宇宙の叡智を地球と人類の目醒めのために

自己治癒力を最大限に引き出す治療法

日本ホメオパシー獣医学会会長
しんでん森の動物病院
院長 森井啓二



風邪を正しく引くということ

最近感染症が話題になっています。多くの人は、まず薬やワクチンに頼ろうとする習慣が定着してしまっているようです。本当にそれでいいのでしょうか？

「風邪が治る」とはどういうことなのか確認しておきましょう。風邪のウイルスは体内に入ると、気道粘膜に付着して増殖を始めます。この時点で、体が健全で、抗体を持っていないなど免疫力が働けば、ウイルスは増殖できず、無症状のまま回復します。ウイルスが十分な量まで増殖してしまつた場合は、気道粘膜は脳に指令を出して、発熱します。身体は発熱することによって、このウイルスの体内での増殖と暴走を止めます。ウイルスは発熱に弱いのです。

そして弱ったウイルスを排除するために、生体は鼻水、痰、咳などのさまざまな症状を起こします。発熱してウイルスの増殖を止めて、鼻水や痰、咳などで、病原体を体外へと排出していくのです。その治癒に繋がる身体の免疫の働きが、「風邪の症状」と呼ばれるものです。風邪の本体ではありません。そして、身体の免疫反応による自己治癒力によってウイルスが鎮圧されると、風邪の症状は消失します。

自己治癒力を正しく使って治癒した身体は、風邪を引く前よりもより強靱になります。さらに持病があれば、持病ごと治ってしまうこともあります。これが「風邪が治る」ということです。風邪に対して正しく自己治癒力を使うことで、より丈夫な体に調整されるのです。

この過程は、スポーツで言えばランニングや筋力トレーニングなどの基礎運動に似ています。身体は正しく適度な負荷をかけることによって、より丈夫になります。風邪は決して悪いもの

現代の治療法について

現代の治療法はどうでしょうか。風邪薬も解熱剤も薬局で販売されています。病院に行っても抗生物質や解熱剤を中心にしたたくさんの薬が処方されます。これは、健康体においては身体自身が治そうとする免疫反応を妨害してしまうだけのことが多いものです。実は、風邪のウイルスを消す薬など存在しないのです。そして、服用する薬の生体内での反応が、どれほど生体の正常な活動を妨げてしまおうか、全く無視して使っているのが現状です。

ここまではわかっていても、関わらず、いまだに新型コロナでもウイルス増殖を促進する解熱剤が当たり前のように使われています。これは何故でしょうか？

高熱が出るのは、自己治癒力の発動であるのに、あえて治癒の過程を妨害するのは何故でしょうか？ たしかにほとんどの人は、解熱剤によるウイルスの増殖促進を起されても、免疫力はそれを上回りウイルスに打ち勝つことができます。それでも、若い世代で、特定の解熱剤を飲んだために新型コロナウイルスが重症化した人たちが続きました。

今の医療では、自己治癒力を尊重しないだけでなく、発熱する治癒力のある患者に対してさえ、解熱剤を投与してウイルスの増殖を奨励してしまおうという矛盾のある治療を行っているのが現状です。

現代医療は、治療するだけでなく、治癒に最も重要な免疫システムを妨害し、新たな病気も作り出していることが次々と判明しています。医学雑誌には、特定の医薬品を使っ

た治療によって重症化するという報告も出ています。調べてみると、ピアノの演奏で美しい旋律を奏でている最中に横から適当に鍵盤を押して、音楽を妨害するようなものなのです。

基本的に、正しい風邪の引き方とは、仕事を休んで、薬に頼らず、暖かくして、しっかりと寝ること。あとは、しっかりと体の言葉を耳を傾けること。水分が必要なら飲む。塩分が必要なら飲む。お腹が空いたらなら、消化の良いものを少量ずつとる。そしてしっかりと寝る。当たり前のことばかりです。これが風邪の最高の治療法であることが、最近の研究でも明らかにされています。

風邪は「ひく」といいますが、これは昔の人は、風邪の原因は邪氣をひきつけると考えていたことに由来します。自分の思いや行いが悪いと、邪氣をひいてきてしまうのです。

現代の私たちは、風邪をウイルスや細菌のせいにしてしまっています。でも、もっと別の角度から見てもみませんか？風邪は、正しく対処すればありがたい面も結構あるのです。

薬依存からの脱却とホメオパシー

そのためには、薬依存、ワクチン依存から抜け出して、すべての人に備わっている自己治癒力をもっと尊重しなければなりません。私たちの身体には、元々すべての不調を治す力が備わっています。でもその力は使わないままでは、眠ってしまうこともあるのです。

自己治癒力を尊重した最も優れた治療法の一つが、ホメオパシーです。ホメオパシーは、同じような症状を引き起こす物質を希釈して患者に与えて、特定の自己治癒力を強力に刺激することによって、心身の治癒を促進させる高度に体系化された治療法です。睡眠中の自己治癒力も目覚めさせてくれます。

ホメオパシーは、肉体だけでなく、心と精神も同時に把握して深いレベルで治療していきます。一人の患者に対して十分な時間をかけて症状や思考、言動、仕事、生活習慣などの情報を集められるだけ集め

て、さらに必要に応じた臨床検査もおこなった上で、患者の全体像を把握していきます。そして、一人一人の症状、性質、性質に一番合ったホメオパシー薬を探し出します。それは身体的な面だけでなく、心理的な面や精神的な面も含んで考慮されます。身体の治療であつても、心の深い領域の歪みも含めて調和へと導いていくからです。そのため、同じ病名を持つ病気に對しても、違うホメオパシー薬が処方されることが多いのです。

病気とは

病気とは、何でしょうか？

人は、心に思い、感じ、話し、食べ、様々な行動を行います。その生き方のどこかで自然の摂理に反した場合に、この生命エネルギーの流れが停滞し、調和の乱れが起り、それが心と肉体に反映されて引き起こされるものが病気です。過去世からの学びの課題として今世に持ち込む人もいます。病気は、生体全体の履歴書になっているわけでは

病気になるには、必ず霊的な理由があります。だから病気がなつたらまず、その理由を内観すべきです。日常生活が多忙で自分自身を内観しない人も、病気になる初めは自分自身のことや生活、周りの人との関係などを振り返り、人生で本当に大切なものをゆくりと探求する時間が与えられます。病気でいる時間を、自分自身を見直すためのいい機会として前向きに捉えることが大切です。

病気は自分を振り返るための絶好の機会です。健康に害を与えるような有害な思考や言動、生活習慣、自分の周りの状況に対する対応、そのほか自分に關するすべてのことに対して振り返ってみて、深く考察し、見直す時間が与えられます。自分が今直面している病気は、自分の魂の発展のために起きた何らかのサインであるはずで

私たちは、普段私たちが見えない所で全身全力を尽くして貢献し、支えてくれている自分の身体に対する感謝の意識を持つているでしょうか。自分には最も忠実な存在が、最も身近で、なくてはならない存在が、自分の身体です。日々身体への意識を向けて、感謝の気持ちを表すだけでも、身体に對する意識が大きく変わります。病気は、それを教えてくれます。病気の治療は、

ただ単に治癒することだけが目的ではなく、病気が治癒する過程において霊的な学びを得ることが本当の目的になります。

心と身体は一つの有機的なエネルギーとして機能しています。だから病気は、思考や言動に密接に関わっています。

人を妬んだり憎めば、同時に自分の肝細胞を傷つけることになりま

社会的な強いストレスは、胃や腸に影響を与えます。過剰な不安や恐怖心は、神経系と内分泌系の活動を委縮させてさまざまな器官に悪影響を与えます。

だから他人を憎んでいる人が肝臓疾患になった場合には、肝臓の治療と同時に憎しみの波動を和らげていかないと、治療が阻害されたり、何度も再発してしまふことになりま

自分の病気と真摯に向き合い、根本的な治癒に導き、魂を磨く礎にするには、ホメオパシーは最も有用な治療手段になります。身体が自己治癒力を刺激すると同時に、現在の心の不調和を過去の心の傷から遡って修復し、生体全体を調和に導くことが出来るから

これからの時代は、もっと自分自身を探求し、魂を磨いていく最適な時代に入ります。その時にホメオパシーは最も有用な治療法の一つになることは確実です。是非とも積極的にとり入れていくことをお勧めします。

森井啓二（もりいけいじ）略歴
日本ホメオパシー獣医学会会長、北海道大学大学院獣医学研究科卒業後、オーストラリア各地の動物病院で研修。1980年代後半から動物病院院長として統合医療を開始。日本ホメオパシー医学会認定専門医として同医学会理事・同会獣医師部代表・国際獣医ホメオパシー学会日本支部代表を歴任。著書に「臨床家のためのホメオパシーマテリアメディカ」「臨床家のためのホメオパシーノート」「実践動物と人のためのホメオパシー」「君が代..宇宙深奥からの秘密の周波数」「君が代から神が代へ上・下」「光の魂たち・動物編」など多数。瞑想、クリヤヨガ、油絵、自然が大好き。

精解 神の詩
想像を超える長い輪廻転生の中で、私たちが学ぶべき叡智とは？
聖典バガヴァッド・ギーター Detailed Explanations of Bhagavad Gita 森井啓二

精解 神の詩
魂を覚醒に導く人類史上最高の真理の書がここに開かれる
聖典バガヴァッド・ギーター Detailed Explanations of Bhagavad Gita 森井啓二

精解 神の詩
ここに、神との合一に向かう霊性進化の旅が始まる！
聖典バガヴァッド・ギーター Detailed Explanations of Bhagavad Gita 森井啓二

光の魂たち 動物編
森井啓二

君が代から神が代へ
森井啓二

宇宙の叡智を地球と人類の目醒めのために

地球と人類の調和と 霊性進化を開く

2022年5月2日(月)12時～5日(木・祝)12時半

帯津良一先生：基調講演
「地球上の一人でも多くの人が日々生と死の統合を目指して内なる生命力を高め地球の生命力を向上させる」

白鳥哲監督：基調講演「人は何のために生きるのか？ 霊性進化の目覚めるとき」

森井啓二先生：基調講演「宇宙の叡智を地球と人類の目醒めのために—地球と人類の調和と霊性進化を開く」

光田秀先生：基調講演「ケイシーのリーディングが啓示する人類の進むべき方向」

特別出演 喜多郎氏(シンセサイザー) 松尾慧氏(横笛)

会場：森の音楽堂「喜輪」-白鳥哲シネマ映画館

宇宙の叡智を地球と人類の目醒めのために

エドガー・ケイシーの福音を水輪で！

NPO法人日本エドガー・ケイシーセンター

会長 光田 秀



水輪の活動に関心をもち、ご支援されておられる皆さまに、エドガー・ケイシーについて今さら説明することは不要とは思いますが、念のため、まずはケイシーという人物と彼の業績について簡単に触れておきたいと思...

エドガー・ケイシーとは

エドガー・ケイシーは20世紀前半のアメリカで活躍した類稀な霊能者です。1877年ケンタッキー州で生まれ、1945年バージニア州で67才の生涯を閉じました。

幼少時から驚くべき霊能を示していましたが、24才の時、彼自身の「失声症」という病気を治すために催眠療法を試したことがきっかけで、驚異的な透視能力——後に「リーディング」と呼ばれるようになる——を発揮するようになります。

高校一年中退のケイシーは、医学知識などまったくないにもかかわらず、ひとたび催眠状態に入ると、たとえ一面識もない人々であっても、あるいは地国に住んでいる人々であっても、正確な医学用語・解剖学用語を用いて、彼らの病気の原因を指摘し、適切な治療法を与える事が出来たのです。

ケイシーは地元で小さな写真館を経営していましたが、一日二回、午前10時と午後3時に、リーディングを求め人々のために長椅子に横になり、催眠状態に入りました。ケイシーの元を



エドガー・ケイシー 1877年～1945年

訪れる人々の大半は、当時の医学が治療法を見出していない病気であったり、末期状態とされる人々であったり、驚くべきことにケイシーは彼らの病気の真の原因を指摘し、それらに対する的確な治療法を示すことが出来たのです。

最初の22年間、ケイシーは写真業のかたわら、もっぱら病人のためにその驚異的なリーディング能力を用いたわけですが、46才になった時に、自分の口を通して得られる情報は後世の人々にも意義あるものかも知れないと考えられるようになり、それまでの写真業をた

たんで、リーディングを取ることを自分の本業とするようになり、正確な記録を残すようになりました。さらに、それまで医療の分野だけに活用されていたリーディングが、質問さえ適切であれば、あらゆる分野の質問に答えられることが見出され、46才からは、電子工学や物理学、歴史学、政治学、心理学、教育など、あらゆる分野に活用されるようになりました。

とりわけ、「ライフリーディング」と呼ばれる新しいタイプのリーディングが取られるようになり、人間の本質が永遠不滅の高貴な魂であることを実証する驚くべきリーディングが精力的に取られるようになりました。

67才で亡くなるまでの間に、記録として残されたものだけでも全部で14306件という膨大なリーディングが取られ、没後はバージニア州にあるエドガー・ケイシー財団に保管され、現在においてもさまざまに研究され役立てられています。

エドガー・ケイシーの業績

エドガー・ケイシーの残したリーディングでまず最初に驚くのは、医学的な情報の量とその質であります。9605件が健康に関するもので、当時不治と思われていた難病を数多く治

癒に導きました。しかも、それらのリーディングは今日の病気治療においても大いに役立てられており、現代医学でなかなか治らないさまざまな疾病「アトピー、乾癬、痛、てんかん、統合失調症、認知症など」が、ケイシーの残した治療法で治癒するのを私自身、たびたび目撃してまいりました。それらについては白鳥哲監督によるドキュメンタリー映画『リーディング』でも大きく取り上げられています。

今回のコロナ禍に対しても、エドガー・ケイシーのリーディングを調べると、きわめて効果的な予防法ならびに治療法を抽出することが出来ます。私は、日本で最初のコロナ患者が現れた段階で、私自身のフェイスブックを通じて、エドガー・ケイシー療法から導き出される有効な予防法と治療法について発表し、その後は、YouTubeにおいても、それらの情報を継続的に発信してまいりました。これらの情報に触れた方々からは、濃厚接触したにもかかわらずコロナを免れたり、肺炎を発症しただけでも重篤にならずに回復することが出来たなど、喜びの報告を多数いただきました。

ケイシーが残してくれた免疫賦活法や肺炎を治すアップルブランデー療法などが広まれば、今回のコロナも、EBSワクチンなど不自然なものに頼らなくても、十分に予防ならびに治療可能であることを実感致しました。

私にとつてのケイシー 医学情報においても卓越したものがありますが、私はそれ以上に重要なものとして、人間の霊的本性を明らかにしたライフリーディングの意義を強調しておきたいと思ひます。

催眠状態に入るだけで、彼自身のまったく知らない情報をもたらすことが出来たということ自体が、すでに人間が単なる肉体的存在ではないことを実証してあまりあることですが、そのケイシーが、「人間の本来は、肉体的の死を超えて永遠に存在し続ける不滅の霊魂である」ことを繰り返し主張したことはとても意義深いことであると思ひます。

かくいう私自身、エドガー・ケイシーを知るまでは、頑迷な唯物論者であり、人間は単なる肉体的存在であり、肉体的の死とともに消滅する存在であると信じて疑いませんでした。

しかし同時に、唯物論を奉ずる限り、自分の人生に「存在価値」を見いだせないことも良く了解しております。私はケイシーを知る二十歳になるまで、人生の意義に苦悩し、頭の中は常に自殺を考えているような人間でした。

そして大学二回生の時に、たまたま本屋で見つけたエドガー・ケイシーの『転生の秘密』（たまた出版）に衝撃を受け、私の世界観は大転換を遂げ、自らの霊的本性を確信するに至りました。それからというもの、私は毎日24時間歓喜の住人でございます。

エドガー・ケイシーは現代における福音

かつて哲学者のカントは、人が人生に希望を見出し、誠実に生きられるようになるためには、「自分の本質が不滅であること」、そして「善悪の究極の判定者である神が存在すること」の、二つの条件が成り立たなければならぬと主張しました。誠にその通りであると思ひます。

しかるに現代はこれらの条件が二つとも否定される社会ではありませぬか。人が利己的になり、利己的な発想が社会に蔓延するの当然の帰結であります。「どうせ死ねば無になる」と考える人の前では、どんな法律も道徳律も成り立ちませぬ。私もこの点において、かつて大いに苦しみました。

しかるに、エドガー・ケイシーは、人間の本来が永遠不滅の高貴な霊的存在であることを、懐疑的で科学的見方を訓練された現代人をも納得させるような仕方であらわれの前に示してくれました。ケイシーのリーディングは、カントの提示した先の二つの条件を見事に満たしてくれました。

肉体的の苦しむ人々にはその具体的な治療法を与え、精神的な苦悩に喘ぐ人々には心の鍛錬法を、そして霊的迷いのある人々には、私たちの人生が神の配慮の内にあることを証明してくれました。

かかる意味において、エドガー・ケイシーはまさに現代における福音であり、肉体・精神・霊魂のすべてのレベルにおいて、生きる勇気と希望と喜びで私達を満たしてくれました。現代に生きるわれわれは、「霊を否定し、「神」を否定する唯物的世界観こそ正しい世界観であるかのように

教え込まれてきました。そして、その結果として、現代社会はいたるところで破綻し、小手先の制度改革くらいではにっちもさっちも行かなくなりまして、そのような社会にあって、水輪の活動に関心を寄せられる皆さまは、同胞に先立って霊的世界に召し出された方々であると信じます。唯物的世界が支配するこの社会にあって、われわれ一人一人が霊的世界を生きていく模範となり、周囲の人々に感化力を及ぼしてまいりましょう。

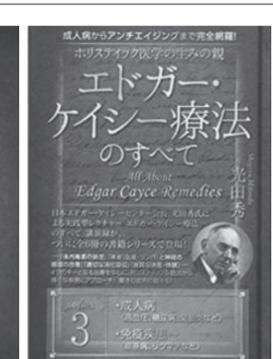
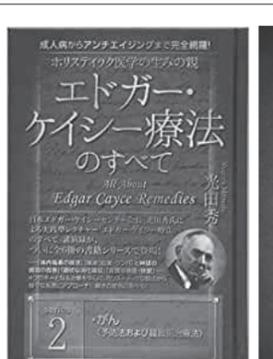
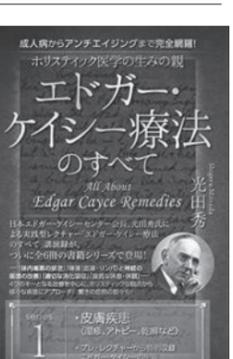
大丈夫、大丈夫。われわれは人数から見ればきわめてマイナーな勢力ですが、われわれの背後には「あらゆるものを相俟って益に導き給う」神がおられるのです。究極的な勝利はわれわれの側にあるのです。時代の変化を傍観するのではなく、われわれ自身がそれらの変化に飛び込み、変容の一翼を担ってまいりましょう。われわれの働きは必ずや「あの方」の恵み得て、豊かな実を結ぶことと確信しております。

最後に、われわれをこの神秘的で歓喜と驚嘆に満ちた世界に存在せしめられた神の栄光を心から讃美致します。

光田秀（みつだしげる）略歴 京都大学工学部卒業。20歳の頃、エドガー・ケイシーの『転生の秘密』を読み、霊的人生観に目覚める。同大学院修了後、政府研究機関にて4年間勤務。以後エドガー・ケイシーを中心

に、霊的哲理の研究・翻訳・執筆に専心。主な著書に、『眠れる予言者エドガー・ケイシー』（総合法令）、『キリストの秘密』、『神の探求』（たまた出版）、『賢者たちのメッセージ』（EBS研究所）、『エドガー・ケイシーのすべて』（サンマーク）、『エドガー・ケイシーの超リーディング』、『エドガー・ケイシー療法のすべて』（ヒカルランド）などがある。

著書



公益財団法人 いのちの森文化財団からのお知らせ
公益財団法人 いのちの森文化財団では、以下の公益目的事業への寄附金を募集しています。
① 「高齢者のための生きがい創造基金への寄付」
② 「青少年の社会復帰と自立のための育成活動への寄付」
③ 「東日本大震災被災地の子供たちの教育を支援する活動（保育園へのお野菜支援含む）」
④ 「いのちの森の会費（一般寄付）」
【ご支援の方法】
▼郵便振替用紙にてお振込みの場合は、振替用紙に寄附先①～④をご記入の上、お振込みをお願いいたします。
▼銀行振込み・電信振込みの場合は、財団事務局までホームページ・メール・FAX・電話（1ページ目参照）にて寄附先①～④をご連絡の上、お振込みをお願いいたします。
【お振込み先】
● ゆうちょ銀行振替口座 00520-3-42181
● 八十二銀行 本店営業部 普通 1093531
● みずほ銀行 長野支店 普通 1991794
いずれも名義は「公益財団法人 いのちの森文化財団」